

「経営と現場の一体化（集団指導体制）」によるグループコーポレートガバナンス

「ありがとう」の最大化を目指し「新体制」を確立

2008年度、ワタミでは、「現場の声」を経営に反映させることを重視し、長期的・多面的・根本的な視点からグループ価値の最大化を図るため、グループ主要各社の社長がワタミ（株）の取締役を兼務する新体制へ移行、同時に「経営と現場の一体化」というワタミのスタイルを明確にした体制となりました。

担当役員制度によるコーポレートガバナンス

グループガバナンスを強化するため、ワタミ（株）の取締役が、自らが執行を担当する事業会社以外に、他グループ会社の経営状況を監視する責任を担う「担当役員制度」を導入しました。

担当役員制度によって、各社への経営資源やインフラの最適化によりグループ経営の相乗効果を高めること、経営の透明性と機動性を向上させることを目的に「役員ミーティング」を開催しています。

INTERVIEW

ワタミ株式会社 取締役 上席執行役員・CFO 兼 経営企画グループ長 木村 敏晴



ポスト創業オーナー時代に、ワタミが安定し、また成長を加速するために、「集団指導体制」を形にする必要があります。担当役員制、権限の明確化、CFO体制による「科学（論理的思考）」強化等々、具体化を進めています。ワタミらしさを維持し、一人ひとりが主人公の状況をより強くつくり出していきたいと思えます。

INTERVIEW

ワタミ株式会社 執行役員 兼 ワタミタクシヨク株式会社 取締役・CFO 山内 博雄



ワタミの各社CFOの最大の仕事は優先順位づけです。具体的には、事業の本質と世の中の流れを正確に理解し、成長ポテンシャルを最大化するために必要な経営資源を確保・配分・管理することが仕事です。ワタミタクシヨクがいち早く日本全国の高齢者の方々に安価で良質なお弁当をお届けできるよう、グループ各社との連携により効率的にシナジーを生み出す「つなぎ役」、「推進役」として頑張っていきたいと思えます。

■ワタミグループ体制図



最適化を目指して コンプライアンス

企業倫理とコンプライアンスの徹底

ワタミでは、企業としての社会的責任を果たしていく上で「理念の浸透」に加え、「企業倫理の確保」と「順法精神の醸成」を最も重要な活動の一つに位置づけて、社内への浸透に徹的に取り組んでいます。

役員・社員には、一人ひとりが法令の順守に留まらず、高い倫理観・使命感を持って実践に取り組めるよう「理念集」を配布しています。

また、グループ全社員が定期的に参加する理念研修会にて、コンプライアンスをテーマに取り上げています。2008年度の研修では、ふれあい報告書2008（CSR報告書）をテキストとして、想定されるコンプライアンス違反についての講義や質疑応答、ディスカッションを行いました。

ワタミヘルプライン

ワタミでは、グループ内に存在する問題を広く受け付け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口（ワタミヘルプライン）を、グループ全従業員（パート・アルバイトを含む）およびお取引業者様に向け開設しています。

ヘルプラインは、2006年4月から施行された公益通報者保護法にも準拠し、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直接連絡する窓口と外部委託機関である（株）インテグレックス経由で連絡する窓口の2つを設けています。社内外の2つの窓口を持つことで、企業活動に伴うリスクの早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。

ヘルプライン受付アドレス

※Eメールアドレスへは携帯電話からのメールでも可能です。

■ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

■（株）インテグレックス（外部委託会社） w-helpline@integrex.jp
インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>

ノロウイルスによる食中毒事故発生のご報告

ワタミの介護株式会社が運営する介護付き有料老人ホーム「レストヴィア町田小野路」において、ノロウイルスを原因とする食中毒事故が発生し、当該施設において7日間の「給食業務停止」の行政処分を受けました。

2009年4月29日に、ご入居者様、職員に下痢や嘔吐の症状が見られ、5月1日までに合計28名が発症し、保健所の調査の結果、うち4名からノロウイルスが検出されました。事故発生の時より保健所の指導に基づき改善に努めました。

ワタミでは、以前より原材料の菌検査や外部検査機関による衛生検査を実施していましたが、再発防止と信頼回復のため、グループ全社をあげて安全衛生対策の強化に取り組んでまいります。

今回、発症されたご入居者様に大変なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

また、関係者の皆様にもご心配ご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんでした。重ねて深くお詫び申し上げます。

リスクマネジメント

グループリスク管理体制の強化

2009年4月1日より、グループのリスクに広く対処する専門部署として、ワタミ（株）に「リスク管理グループ」を新設しました。

内部統制の構築を通じて、コンプライアンス・リスクマネジメント体制を推進し、内部監査によりグループ内に潜在しているリスクを把握、グループ経営会議・各社への提言を行い、是正・改善を図り、企業としての健全性（誠実さ・透明性）の確保に努めています。

INTERVIEW

ワタミ株式会社 リスク管理グループ長 塚田 武



グループ事業が拡大する中で、それに伴いリスクも専門化・多様化・複雑化しています。グループ全体として、このリスクをコントロールするため、発生した事象への対応はもとより、リスク事象の未然防止・発見の機能を強化しています。グループ各社のリスク管理担当部署と密接な連携を図り、情報共有をすることで早期対応し、ワタミグループ全体の「安全・安心」の維持・向上を目指していきます。

リスク発生時の対応体制の拡充

ワタミではリスクを、(1) 経営リスク、(2) 政治・経済・社会リスク、(3) 災害・事故などによるリスクに分類し、それぞれのリスクの影響度・発生頻度を考慮し管理しています。各リスク案件についてはリスク管理グループがリストを作成・管理のうえ、グループ経営会議に報告しています。

2008年は、新型インフルエンザの発生（国内・国外含め）など、新たなリスクも発生しています。これらを受けて事業を継続するための体制（BCM）と計画（BCP）の整備・充実を図りました。

また、リスク案件がグループ各社にて発生した際の「リスク案件対策本部」や「緊急対策本部」の召集など、迅速・的確な対応を促す体制を改めて強化しました。

■リスク案件管理体制図

